41

七たび渡る足羽川　美山の越美北線

福井市小和清水町、安波賀町など

一乗谷駅から美山駅までの約９ｋｍの区間、越美北線は足羽川を七度渡る。鉄橋が近づくたびに窓に額を押しあてて足羽川の清流を見る。鉄道の旅の醍醐味だ。

第６足羽川橋梁（福井市小和清水町）

第１足羽川橋梁（福井市安波賀町）

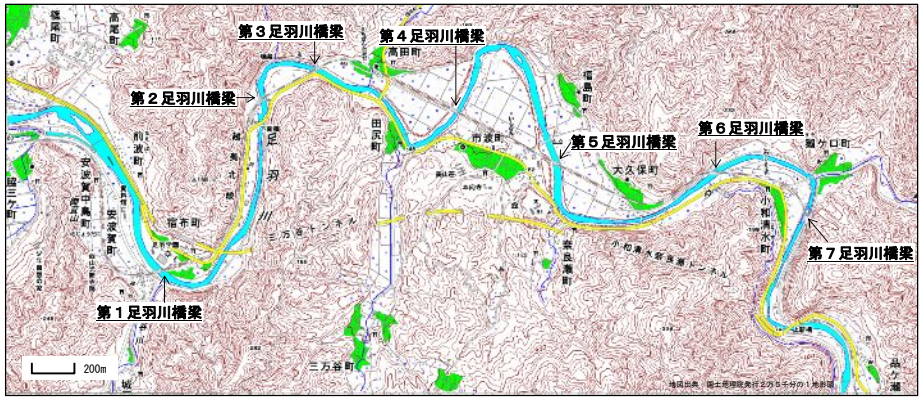
大きく蛇行する足羽川に、何度も鉄橋で川を渡っていく越美北線。越美北線は、JR 北陸本線の福井～九頭竜湖間を結ぶ、全長 55km の路線です。一乗谷駅から美山駅間は７つの鉄道橋があり、杉の山林や足羽川の流れに調和した美しい景観となっています。

第５足羽川橋梁（福井市市波町）

第３足羽川橋梁（福井市高田町）

第７足羽川橋梁（福井市小和清水町）

平成16年７月に発生した福井豪雨では、足羽川の各所で決壊し、越美北線沿線では特に旧美山町域での被害が甚大であり、７つの鉄道橋のうち、５橋が流出してしまいました。廃線の危機にも陥りましたが、県や地元の支援により、復旧工事が進み、平成19年６月に全線復旧することができました。



42

人と自然が育てた　美山の杉林

福井市美山地区

植林、間伐、枝打ちと休むことなく手を加え、親から子へ、子から孫へと引き継がれ、ようやく樹齢 100 年以上の杉に育つ。美林を見れば、代々受け継がれてきた美山の人の営みを感じる。

福井市美山地区の杉山

樹齢 100 年を超える杉の伐採作業（福井市美山地区）①

福井市美山地区は山林面積が約 9 割を占めており、古くから林業が盛んで、全国有数の大径木の生産地として知られています。

山間部では積雪が２ｍを超えるところもあり、春を迎えると、雪の重みで倒れた杉を起こす作業を行います。日々の地道な作業が美山の杉を支えています。

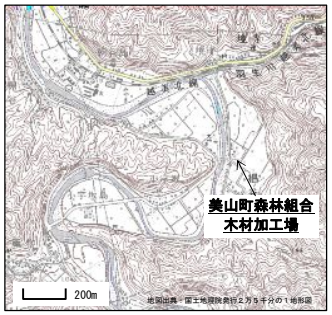
木起こし作業（福井市美山地区）②

福井市三万谷（さんまんだに）町

美山町森林組合木材加工場（福井市境寺町）

美山地区では、杉山に囲まれた集落など、自然と共に生きる日本の農山村の原風景が残っています。まっすぐに伸びる杉を見上げると、普段の生活を忘れ、とてもリラックスした気持ちになれます。「いったいこの大きさに成長するまでに、どれくらいひとの手がかかっているのか」そう思うと、自然と先祖への感謝の念すら湧いてきます。

そこに暮らす人々によって、杉山の手入れが代々引き継がれ、杉の里の景観が守られています。



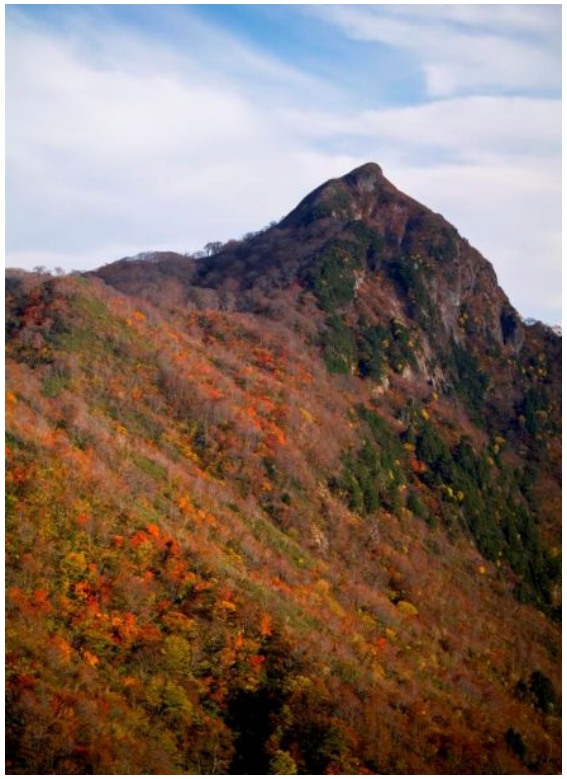
写真①、②は美山町森林組合提供

43

足羽川源流　冠山と龍双ヶ滝

池田町志津原など

私達の生活に欠かせない水。水源の町池田町では、水が作りだす様々な風景を、見て聞いて、触れて感じることができる。



冠山

足羽川（池田町志津原）

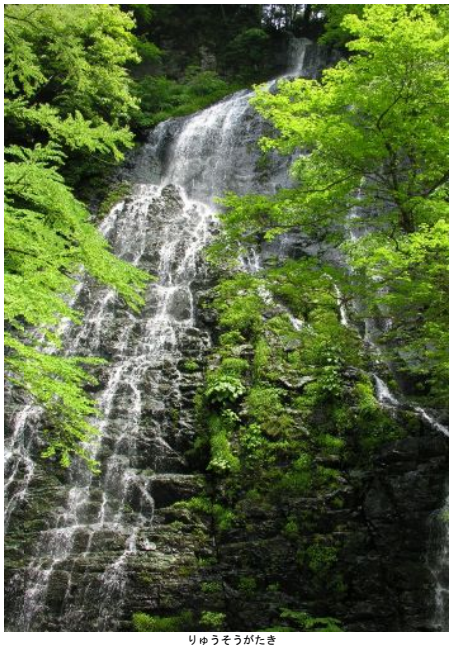
池田町と岐阜県境に位置する冠山（標高 1,257m）は、「21 世紀に残したい日本の自然 100 選」に選ばれた山です。この山の表情は実に多彩で、冬から春にかけては雪も多く、人を寄せ付けない厳しさを持ちますが、初夏から秋には、自然 100 選に恥じないほどの雄大な姿を見せ、また、高山植物やニッコウキスゲなどの花が咲き、登山客を楽しませてくれます。山頂の切り立った雄々しい姿と辺り一面の紅葉を見ると、登山の疲れや都会の喧騒をすべて忘れて、大自然の素晴らしさに暫し時を忘れることができます。

冠山を源流とする足羽川（流路延長約 63km）は池田町から福井市を流れる住民に馴染みの深い川です。源流の池田町では、とても清らかな流れで、せせらぎの音を聞きながら、その川面を見ていると、体も心もリフレッシュすることができます。

また、志津原高原を流れる足羽川には、シラクチカズラでできた本格的なつり橋「かずら橋」があり、周囲の自然景観に溶け込んでいます。

龍双ヶ滝は、落差 60m の岩肌をなだらかに流れ落ちる優美な滝で、県内で唯一「日本の滝 100 選」に選ばれています。

池田町には、水源の町にふさわしい景観が数多く残っています。



龍双ヶ滝

かずら橋

足羽川（池田町志津原）

写真はすべて池田町提供

44

伝統息づく能楽の里　池田

池田町水海など

古来より連綿と続いた能文化。平成の世となりその多くは消失したが、それでもかすかに残る伝統の面影。池田町の能文化に触れると、鎌倉・室町時代に思いを馳せることができる。

水海の田楽能舞（国民俗文化財）

田楽能舞

池田町水海の鵜甘神社において、毎年２月 15 日に奉納されている「水海の田楽能舞」。およそ750 年にわたり受け継がれ、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。

由来は、鎌倉幕府の執権、北条時頼が諸国行脚の際、雪で立ち往生し、水海地区で越冬することになったとき、村人達が田楽を舞って時頼を歓待したところ、時頼が返礼として「能舞」を教えたとされています。

須波阿須疑神社（国重文）（池田町稲荷）

池田町能面美術館（池田町志津原）

新作能面公募展の審査風景

白山神社のお面さんまつり（池田町志津原）

かつて池田町内では５ヶ所の神社で旧正月に能が奉納されていたそうです。稲荷の須波阿須疑神社（国指定重要文化財）でも大正中期までは能が奉納されていました。毎年２月６日には、神社に伝わる能面が祭られ一般公開されています。志津原の白山神社においても２月 17 日に同様の行事が行われています。豊作祈願や延命息災など、もはや神頼みの世ではありませんが、人々の神への信仰心は、形は変われど現在も受け継がれています。

池田町の能面美術館には、古面も含め現在 70 の面が展示されています。この面は一体何を考えているのか、作り手は何を思ってこの面を作ったのか。じっと見つめると、面は何かを訴えかけているようです。また、池田町では、毎年「新作能面公募展」を開催しており、全国から数百の能面の応募があります。

写真はすべて池田町提供

45

農の営みが見える　池田の原風景

池田町東角間、東俣など

土を耕し作物を育て、その恵を得ることで成り立つ暮らし。何千年と続いた人の営みが崩れたのはほんの数十年前。失われつつある農とともにある風景が池田町にはまだ残っているようだ。

池田町東角間の代かき作業

池田町東俣の水田

池田町には、農業と結び付いた風景が多く残っています。

町では、生ごみを回収して作った堆肥で土をつくることにより、土本来の豊かさを取り戻し、そこで農薬の使用を極力減らした町独自の「池田町ゆうき・げんき正直農業」に取り組んでいます。手間を惜しまず、食べる人のことを第一に考えた昔ながらの育て方が池田町のおいしい農作物を支えています。池田町のおばちゃんがまごころ込めてつくった農産物をいただくと、食への感謝の気持ちが湧き上がってきます。

軒先で大根を干す風景は池田町では馴染みのもので、農とともにある生活を感じることができます。

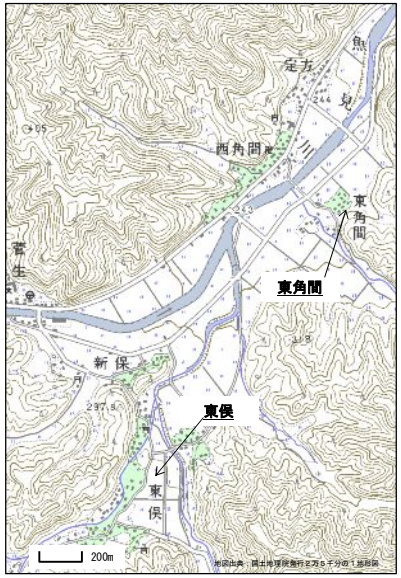
池田町では、積雪が2mを超えることもあります。そこに暮らす人々は自然の厳しさを知っているからこそ、自然の恵みに感謝を忘れないのかもしれません。

大根干しの風景

深雪に耐える柿の木

魚見の手作りこんにゃく

池田町魚見では、昔からこんにゃくが作られています。こんにゃくいもを練るのは大変な力仕事ですが、何十年もその作業を続けてきたこんにゃく作りの達人によって、歯ごたえのあるおいしいこんにゃくが後世に引き継がれていきます。



写真はすべて池田町提供

46

近松文学のふるさと 吉江

鯖江市吉江町、米岡町など

近松門左衛門の名作「曽根崎心中」は日本初の人間ドラマだという。近松のふるさと吉江・立待地区では市民グループによる人形浄瑠璃が盛んだ。いつの世でも庶民が主人公の物語は心に響く。

吉江七曲り

春慶寺の大杉(市天然記念物)と石仏(市文化財)

鯖江市の吉江町界隈は、江戸時代に、福井藩の支藩である吉江藩の城下町で、当時の面影を今に伝えています。

「吉江七曲り」は、敵が侵入しても容易には通り抜けられないように仕組まれた城下町特有の道路割で、その名のとおり道路が七つの鉤型に曲りながら町並みを貫いています。かつては武家屋敷が建ち並んでいましたが、現在も旧家の古風な塀垣が当時を偲ばせてくれます。

浄瑠璃作家として元禄文化を築いた近松門左衛門もこの地で幼少期を過ごしました。

榎 お清水

西光寺表門（旧吉江藩舘の表門）（国登録文化財）

人形浄瑠璃の市民グループ「近松座」

吉江藩のお泉水「榎お清水」は、近松が仲間とともに水遊びに興じたと伝えられており、春慶寺山麓にあります。お清水の前には近松の浄瑠璃をイメージした公園があります。

春慶寺の前身は泰澄大師創建の「心敬寺」です。吉江藩の時代に同藩の祈願所となり、「春慶寺」という寺号へ改められました。

春慶寺参道左脇には目通り４ｍを超えるスギの巨木があり、真っ直ぐに伸び枝張りも大きく、見る者を圧巻します。

西光寺の表門は吉江藩が廃藩となったときに藩邸の門を移築したものであり、当時の吉江藩の面影を残す数少ない建物です。

人形浄瑠璃の市民グループ「近松座」は三味線・太夫・人形遣い等の演者や大道具・小道具等の制作スタッフすべてを住民参加で行っており、近松門左衛門の里・鯖江のPRに大きな役割を担っています。

写真はすべて鯖江市提供

47

つつじの絨毯 西山公園

鯖江市西山町

緩やかな斜面が満開のつつじの花で敷き詰められる五月、鯖江のまちは活気づく。鯖江の花見はつつじが主役だ。

つつじまつり（毎年５月３～５日開催）

もみじまつり（毎年 11 月 1～30 日開催）

鯖江市民憩いの場、西山公園は、約５万株のつつじが咲き乱れる日本海側随一のつつじの名勝で、「日本の歴史公園 100 選」にも選ばれています。

鯖江藩第７代藩主間部詮勝公が領民と共に楽しみたいと造った「響陽渓」がその前身です。

さくらのライトアップ

春のさくら、初夏のつつじ、秋のもみじ、冬の雪つりなど四季折々の景観が楽しめ、「つつじまつり」や「もみじまつり」には多くの人で賑わいます。

公園内には芝生広場や、動物園、日本庭園など見所が満載です。

山頂の展望台からは、鯖江市街地はもちろん、遠く白山連峰の眺望も楽しめます。

紅葉に映える日本庭園（響陽庭園）

「響陽渓」石碑

西山動物園

写真はすべて鯖江市提供

48

門前町と城下町の面影　鯖江の町並み

鯖江市本町など

誠照寺の門前町、鯖江藩の城下町の面影を残す鯖江のまち。古い寺院や伝統的な町家が点在している。歴史を見つける楽しさのあるまちだ。

誠照寺 ①

鯖江は、中世には親鸞聖人ゆかりの本山誠照寺の門前町として、また、近世には鯖江藩５万石の城下町として栄えました。

門前の通り沿いには、寺院などが建ち並び、歴史の風情のある町並みが残されています。

誠市（３～１２月の毎月第２日曜日開催）②

駆け出しの龍

あめや呉服店（国登録文化財）

萬慶寺山門（市文化財）③

植田家長屋門（市文化財）④

誠照寺の御影堂は木造建物では県内最大規模を誇り、山門の四足門（県文化財）は、「鳥すますの門」とも言われ、左甚五郎作と伝えられる彫刻「駆け出しの龍」は特に有名です。

誠照寺境内では、毎月１回、第２日曜日に骨董市の「誠市」が開催されます。隣接する商店街もこれにあわせて「ご縁市」を開催しており多くの来場者で賑わいます。

誠照寺門前通りにある「あめや呉服店」は、黒漆喰塗りの重厚な外観をもち、趣のある店構えは歴史を感じさせてくれます。

萬慶寺は鯖江藩主間部家の菩提寺です。山門は嘉永２年(1849)の建築で、全体的に簡素ながら禅宗様でよくまとまっています。また、鯖江では数少ない２階建ての楼門形式の門の１つです。

植田家長屋門は代々鯖江藩の家老職を務めた上級武家の表門で、鯖江藩時代の面影を残す数少ない建造物のひとつです。

写真①～④は鯖江市提供

49

越前漆器の伝統受け継ぐうるしの里 河和田（かわだ）

鯖江市河和田（かわだ）地区

磁器をチャイナ、漆器をジャパンと英語では呼ぶそうだ。日本最古の漆器産地と言われる河和田には、日本を代表する伝統技能を受け継ぐ木地師、塗り師、蒔絵師などの家や工房が立ち並ぶ。

河和田（かわだ）地区の中道（なかみち）沿いの町並み

漆器職人の絵付け作業

河和田地区を中心として生産されている越前漆器は、1500 年余の歴史と伝統を誇り、その優雅さと堅牢さは全国でも有名で、国の伝統的工芸品に指定されています。

その起こりは、第 26 代継体（けいたい）天皇がまだ皇子の頃、河和田の郷へ視察の折に冠を壊してしまわれた際に、片山の漆塗り職人がこれを修理し「三つ組み椀」を添えて献上したところ大変喜ばれ、「片山椀」と命名され、これが今日の越前漆器に発展したと伝えられています。

越前漆器
（国伝統的工芸品）

漆器神社参道から見た河和田の町並み①

桃源清水（とうげんしょうず）（鯖江市上河内町）②

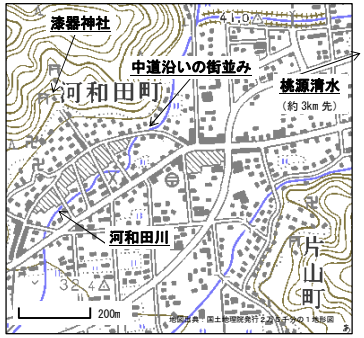
河和田町の中道（なかみち）や大門（だいもん）通り沿いには、漆器工房や黒瓦屋根の家並みなど「うるしの里」にふさわしい木のぬくもりが感じられる町並みが残されています。

高台にある漆器神社へ向かう参道からは、漆器職人の工房群が眺められ、伝統工芸の街らしさを醸し出しています。

桃源清水（とうげんしょうず）は地元で古くから飲まれていた名水で、その昔、継体大王が水源を求めて当地を訪れた頃からの歴史があります。

河和田川流域は、オシドリを 1 年中観察できます。本来、オシドリの生息環境は自然豊かな森であり、河和田地区のように里山で繁殖することは全国的にも珍しいことです。

河和田川のオシドリ③



写真①～③は鯖江市提供

50

紫式部が詠んだ　日野山・日野川

越前市、鯖江市、南越前町、福井市

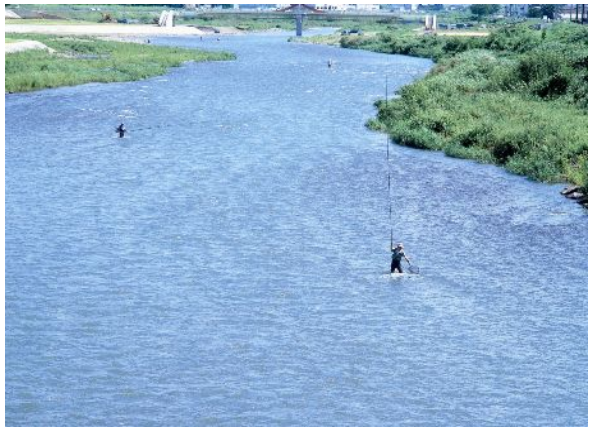
日野川の堤防を歩くと童心に返る。釣りをした清らかな流れ、緑が生い茂る河川敷で寝転がって見た日野山、昔と変わらない風景は心が和む。

日野山（越前市）①

日野川堤防に咲く菜花（鯖江市）②

越前市の市街地からは、端正な三角形をした日野山（標高 795m）を見ることができます。その山容の美しさから「越前富士」とも言われています。

奈良時代から越前国府（現在の越前市）の象徴として知られた名山であり、紫式部のゆかりの地でもあります。越前の国司となった父である藤原為時とともにこの地に来た紫式部は、雪に覆われた日野山を見て歌に詠んでいます。



鮎釣り風景（南条大橋上流付近）③

万代歩道橋（越前市）

福井市（旧清水町）から見た日野山

日野川は南越前町を源に、日野山の西側を越前市から鯖江市へと北流し、九頭竜川へと合流する延長約 66 キロの清流です。

４月になると鯖江市の河川敷には「さばえ菜花」が黄色の絨毯を敷き詰めたように咲き誇ります。

６月上旬から９月上旬になると南越前町を流れる日野川では、県内外から来た多くの鮎釣り客でにぎわいます。

越前市にある「万代歩道橋」は中央の塔から斜めにケーブルを張って橋桁を吊る構造をしており、その特徴的な姿形は、日野山を彷彿とさせてくれます。

写真①は越前市、②は鯖江市、③は南越前町提供